

## 土石流

台風や集中豪雨などで大雨が降ると、山腹や川底の土砂と水が一体となって一気に溪流や斜面を流れ下ることがあります。土石流です。山津波ともいいます。徳島県美馬市と香川県東かがわ市の例をご紹介します。

### ■古宮・口山地区の土石流（徳島県美馬市）

昭和 51 年（1976）9 月 8 日から 13 日にかけて来襲した台風 17 号により、穴吹町（現美馬市）は豪雨に見舞われ、未だかつてない大きな被害を受けました。なかでも古宮・口山地区の被害は甚大でした。古宮地区の山間部の降雨量は約 2,000 ミリに達したため、小河川は山腹の崩壊によって氾濫し、土砂を巻き込み土石流となり、河床は堆積土砂で持ち上げられました。古宮や口山では山腹の崩壊や河川の氾濫によって、家屋が押しつぶされたり、流されたりして、被害は死者 1 人、行方不明者 1 人、住家の全壊 78 棟、半壊 48 棟、床上浸水 37 棟、床下浸水 122 棟などに及びました。町では激甚災害の指定を受け、復旧工事を行いました。古宮に災害復旧記念碑が建立されています。＜穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987 年及び穴吹町編「災害とたたかう台風 17 号記録」1979 年＞



### ■笠松地区の土石流（香川県東かがわ市）

平成 16 年（2004）10 月 20 日昼前、台風 23 号の接近により、香川県東部の山間部を中心に激しい雨となり、夕方まで降り続けました。東かがわ市の日下峠では、最大時間雨量 116 ミリ、累計雨量 674 ミリを記録しました。この豪雨により、東かがわ市水主（みずし）の笠松地区では、笠松川やその他溪流で土石流が発生し、家屋の全壊 6 棟、半壊 1 棟、流出 3 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 10 棟という大きな被害が発生しました。幸い人的被害はありませんでした。香川県では砂防事業を実施し、工事箇所隣接地に災害の記憶を風化させないために、「あの日を忘れない」碑を建立しました。＜香川県土木部河川砂防課編「証言あの日を忘れない平成 16 年香川県土砂災害の記録」2006 年及び香川県土木部河川砂防課編「平成 16 年土砂災害復興の記録」2009 年など＞

